

定 価 1部140円(本体133円+共200円)
 予約購読料 1年分 5,000円
 紙代のみ 3,500円
 振替 00140-9-145275
 本紙を購読ご希望の方は、前金を
 そえて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。
 教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 **日本基督教団**
 169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
 FAX03(3207)3918
 発行人 内藤留幸
 編集主筆 竹澤知代志
 印刷所 株式会社きかんし

東日本大震災 諸教会の被害状況は

石橋議長ら奥羽・東北を訪問

地震発生の翌12日、総幹事のもとに設置された「救済対策委員会」は、直ちに被災地に調査員4名(石橋秀雄教団議長、藤盛勇紀幹事、加藤誠幹事、森田恭一郎社会委員)を派遣することを決定した。主な目的は、教団として被災教会を問安、安否・被害について情報を収集し、備かでも救済物資を運び、可能ならば奥羽、東北の教区議長と対応を協議することである。翌日曜日早朝の出発と決まった。

13日(日)早朝、車2台でそれぞれ埼玉、東京を出発。すでに深刻な事態となっていた福島第一原発を避け、日本海側から仙台に入ることにした。まずは新潟の十日町教会を目指す。新潟中越沖地震の際に救援活動の拠点の一つとなった十

日町教会で主日礼拝を守り、新井純牧師と懇談して、アドバイスをもらった。市内のスーパーで救援物資を購入し、急ぎ被災地に向かう。新潟、山形、経由で仙台に入り、仙台東八番丁教会東北教区議長高橋和人牧師)に到着した時は夜10時を回っていた。水道、電気ともに遮断されたままだが、旅行中に地震に遭った青年らが避難所を経てここに逃れていた。

その夜、高橋和人教区議長と共に東北教区センターへ移動。教区宣教委委員長の片岡舘也牧師らと情報交換する。この東北教区センターは、仙台市内では珍しく電気・水道とも通じている。安心して水が飲め、トイレも使えるのはありがたい。

フットワークが良い石橋議長、しかし足取り重く、石巻市内

14日(月)、朝食代わりのバナナをほおぼり、高橋教区議長も同乗して仙台北教会(小西望牧師)へ向かう。仙台市内を走っていてよく見かけるのは、様々な行列だ。まず、ガソリンを求めて道路の端に並ぶ自動車の列。次に、スーパーなどの商店に並ぶ人の列。そして、水道の出る地域の公園では水汲みの行列。どの列にも共通しているのは、整然とした静けさだ。

仙台北教会は、礼拝堂正面の高い位置にある大きなガラスが2枚ほど割れ、礼拝堂は吹き曝しとなっている。しかしこの日、小西牧師が案内係兼運転手を引き

被災直後、大船渡市内の信じがたい光景を目にする

東日本大震災 戦後最大の日本の危機に立ち向かって 被災地域の教会と共に…命に仕える…

さらに地震による津波は太平洋側の奥羽、東北、関東500キロにわたって、沿岸地域の町や村を襲い、多くの尊い人命と家屋を呑み込みました。地震発生から10日たっても、その被害状況の全貌は把握しえない状況にあります。

3月22日現在で、8千名余の死亡が確認され、さらに1万2千名余りの安否不明者、そして、35万名に近い人々が過酷な避難生活を強いられています。道路も寸断され、通信手段が切断されて、孤立した地域があり、ガソリン、軽油、灯油等が極端に不足しています。援助物資が被災地域に届けられず、水や食糧が不足し、真冬の寒さに震えて、命を奪われようとしています。今なお医師不足、薬の不足などで、命が脅かされ続けています。まことに、想像を絶する惨状に心が痛み、主の助けを祈らされています。

被災地域の教会の牧師たちは通信網の切断、極端なガソリン不足等で移動手段が限定されるなかで、信徒、付属施設の職員、園児等の安否の確認、被害状況の把握など、必死な活動を続けておりま

す。さらに二次災害として、福島第一原子力発電所で1号機から4号機までが壊滅的打撃を受け周辺地域の被災された方々をほしめ、多くの方々を一層の苦しみと不安に追い込んでいます。原子炉が爆発し、放射性物質が大気に放出されないように、世界の人々が注視していますが、ことに福島第一原子力発電所の周辺にお住まいの方々の安全を願っています。

巨大地震と津波がもたらした危機、原子力発電所事故による放射性物質汚染の危機、戦後最大の危機の中に命が脅かされています。

教団では、大震災救援対策委員会を設置し、ただちに被災地域の教会の問安と被害状況出来るだけつまひらかに知るため、教団議長、2人の幹事、社会委員の4名を仙台に派遣(13日、16日)、宮城、岩手の被災地域の教会問安と被害状況の把握に努めました。

また、地震直後から教団事務局の幹事、職員と共に議長が泊まり込んで情報の収集に懸命に努めました。

15日には岩手の一関教会にて奥羽教区議長、東北教区議長と共に、奥羽教区内、東北教区内の被災地域の教会の被災状況の確認と今後の対策を協議しました。

この時、被災地域の愛する家族を失い絶望の中にある方々、愛する者の安否を懸命に求めておられる方々、津波によって家を失って途方にくれておられる方々、原発の事故で不安の中にある方々、要条件下で避難所生活をされている方々のために、主の慰めと助けがあるよう、教団内のすべての教会の祈りを深めましよう。

2011年3月23日
 日本基督教団総会議長
 石橋秀雄

「わたしたちの助けは、天を造られた主の御名にある」
 (詩篇124編8節)

被災された方々とその関係者の方々に心からお見舞い申し上げます。

3月11日午後2時46分、巨大地震が東日本を襲いました。世界の観測史上4番目に大きいマグニチュード9.0を記録し、甚大な被害をもたらしました。その地震のエネルギーは関東大震災の45倍、阪神・淡路大震災の1,450倍とのこと

3月22日現在で、8千名余の死亡が確認され、さらに1万2千名余りの安否不明者、そして、35万名に近い人々が過酷な避難生活を強いられています。道路も寸断され、通信手段が切断されて、孤立した地域があり、ガソリン、軽油、灯油等が極端に不足しています。援助物資が被災地域に届けられず、水や食糧が不足し、真冬の寒さに震えて、命を奪われようとしています。今なお医師不足、薬の不足などで、命が脅かされ続けています。まことに、想像を絶する惨状に心が痛み、主の助けを祈らされています。

被災地域の教会の牧師たちは通信網の切断、極端なガソリン不足等で移動手段が限定されるなかで、信徒、付属施設の職員、園児等の安否の確認、被害状況の把握など、必死な活動を続けておりま

す。さらに二次災害として、福島第一原子力発電所で1号機から4号機までが壊滅的打撃を受け周辺地域の被災された方々をほしめ、多くの方々を一層の苦しみと不安に追い込んでいます。原子炉が爆発し、放射性物質が大気に放出されないように、世界の人々が注視していますが、ことに福島第一原子力発電所の周辺にお住まいの方々の安全を願っています。

巨大地震と津波がもたらした危機、原子力発電所事故による放射性物質汚染の危機、戦後最大の危機の中に命が脅かされています。

教団では、大震災救援対策委員会を設置し、ただちに被災地域の教会の問安と被害状況出来るだけつまひらかに知るため、教団議長、2人の幹事、社会委員の4名を仙台に派遣(13日、16日)、宮城、岩手の被災地域の教会問安と被害状況の把握に努めました。

また、地震直後から教団事務局の幹事、職員と共に議長が泊まり込んで情報の収集に懸命に努めました。

15日には岩手の一関教会にて奥羽教区議長、東北教区議長と共に、奥羽教区内、東北教区内の被災地域の教会の被災状況の確認と今後の対策を協議しました。

この時、被災地域の愛する家族を失い絶望の中にある方々、愛する者の安否を懸命に求めておられる方々、津波によって家を失って途方にくれておられる方々、原発の事故で不安の中にある方々、要条件下で避難所生活をされている方々のために、主の慰めと助けがあるよう、教団内のすべての教会の祈りを深めましよう。

2011年3月23日
 日本基督教団総会議長
 石橋秀雄

(2面に続く)

地震、津波、諸教会の被害状況は 爆撃後の街さながらの壊滅状態

さらに石巻市街を海岸方面へ進む。自衛隊や警察、消防の車の往来が目立ち、ついに一般車の進入が規制された。規制区域の外に車を駐め、歩いて石巻栄光教会へ向かう。

越える、いきなり、あり得ない光景が目に見え、おびただしい瓦礫の山、どれも異常な姿勢の多数の車。折り重なり、電柱に引っかかり、家に突っ込んでいる。破壊された建物。爆撃後の街さながらの壊滅状態。

石巻市街を一望できる高台で、石巻山城町教会の鈴木淳一牧師、妻善姫牧師夫妻に偶然出会う

多くの人がどこへ向かうともなく、荷物を抱えながら、黙々と歩いている。時々、悲鳴とも歓声ともつかない声がかかる。無事と云えるのか、とにかく生き延びて再会したのだ。

石巻栄光教会（小鮎實牧師）は、土台が若干高いのか、辛うじて海水は床ままで襲わなかった。幼稚園舎は避難者のために開放されていた。救援物資は車に残してきたので、たまたま教会堂の脇にあった台車を借りて、物資を取りに車まで戻る。道路は、海から運ばれたと思われる泥で薄く覆われている所が多い。荷物を積み上げた台車を押すのはやっかいだが、時々、強い視線を感じる。突然と座り込む人、自転車に限界まで荷物を積んで運ぶ人。しかし皆、静かだ。

小鮎牧師の車をお借りし、石巻山城町教会を訪ねる。鈴木淳一牧師、妻善姫（ペーソン）牧師夫妻は、地震発生時は無事が確認されていたが、その後の足取りが不明だった。しかし、夫妻は無事に帰っていることを隣家の人から聞いて安心。少しばかりの水と食糧を玄関先に置いて、石巻の街を一望できる高台の日和山公園へ登ってみる。

一度、石巻栄光教会に戻ると、初めて見る石巻なのに「変わり果てた街」だと分かる。津波に襲め尽くされ、所々煙も立ち上っている。捜索だろうか、ヘリコプターが昇降している。この壊滅した街の、しかしどこかに生存者がいるに違いないと思いつつ、ただ眺める（後日、地震から9日後の20日、80歳の祖母と16歳の孫が、ここからわずか数百メートルの所で救出された）。

か青年は、携帯電話で会社に連絡。同僚や先輩たちが、迎える準備をしているという。会社に到着すると、青年は歓喜の輪の中、もみくちゃにされた。

訪ねられない。なにしろ岩手県は四国四県が入るほど広い。南部の大船渡を目指しながら、途中、千厩教会（三河豊、柳沼救羊子牧師）に立ち寄る。古い会堂は無人だったが、鍵はかかっていた。鍵をかけたようにも、玄関の扉が閉まらないのだ。

港近くの市街へ下りてみる。2階、3階の建物がひっくり返っている。瓦礫の高さなどから想像するに、津波の高さは優に10mは超えていそぎだ。海外のレスキュー隊が、瓦礫の間を潜って捜索・救出活動をしており、そこに海外のメディアがテレビカメラを向けている。視覚的には緊迫した激しい光景だが、シーンとした静けさが異様だ。言葉もない。

瓦礫の間に潜り捜索・救出活動する海外のレスキュー隊

地震と津波 なぜ、なぜ

教会被災状況、奥羽教区

被災地を訪ねて、やっと見つけることができた方から、「なぜ、どうして」という声の前には黙していません。聞こえてくる声の中には、「遅い」と。まさに遅いです。でも、この大震災は、もちろん、東

中心に三陸海岸に櫛の歯のように道路が伸びている。沿岸沿いの道は寸断されていて直接回れなかった。それもガソリンがなくなり近隣教会の牧師の車からガソリンをもらい走ってたずねた。

援し、教会は役員が、溜まっていた泥をスコップでかき出し、洗い流す作業をしていた。何もなくなったという声に、言葉を失う。牧師に救助された方は、本当に感謝していた。

釜石から国道45号線沿いにある沿岸の町や村は、まったく消失したもので、山際に押しつぶされたもの、津波の威力の大きさは想像することができない。何人の人の命が失われたか、どうして復旧することができ

人のつながり」とボードに書き、その前で安否確認をしておられた。いまだに不明の方がおられる。街並みは実に壊滅である。

釜石から国道45号線沿いにある沿岸の町や村は、まったく消失したもので、山際に押しつぶされたもの、津波の威力の大きさは想像することができない。何人の人の命が失われたか、どうして復旧することができ

大船渡教会、献堂まな

い礼拝堂は、丘の上にあり安全であった。しかし教会

員の家屋はいくつも津波にさらわれていった。不明の

（但馬秀典牧師）は港から近いが高台にあり、昨年献堂されたばかりの新しい会堂と牧師館だ。留守番をしていた役員に聞くと、2人の会員が行方不明とのこと。しかも2人とも陸前高田在住だという。

新生釜石教会の礼拝堂の惨憺たる様子、説教壇が

宮古教会、津波のために海岸線に近い街並みは、な

山。1メートル70センチの高さの泥水に浸かってしまった。その中で森分和基牧師は避難所にいる方々を支

一階部分を完全に呑み込んだ。役員と共に立った礼拝堂は、無残にも十字架の下

は瓦礫の山。避難所にいる方々への配慮をする柳谷雄介牧師は、「物ではなく、

か考えることもできない。

千厩教会、東北地方特別開拓伝道の折に建築した礼拝堂牧師館は、裏山の亀裂

柳沼救羊子牧師家族は避難

（奥羽教区総会議長）

市街を回避し、やがて大船渡の街へ入る。大船渡教会

（総務幹事・藤盛勇紀）

神の慰めと憐れみと助けを祈り

騒ぎ立つ心に「落ち着け」と言い聞かせて

息長く粘り強く希望をもって 高橋和人

あの時、くぐもった緊急地震情報の警戒音から、異質な時間が始まりました。押し寄せる破壊と恐怖の怒涛、不安と混乱、緊張感の連続。地震、津波、原発事故と広範囲で複合した災害。物と人身に加えられた破壊から、生活、心、共同体へとその傷の深さ。いまだ犠牲者の数もわからないほどの規模、あらゆる分野への波及。信頼に足る情報のなさ。支えあうこともままならぬもどかしさや苛立ち。時間感覚さえもあまいになります。騒ぎ立つ心に「落ち着け」と言い聞かせています。

しかし、祈りに覚えられていることに、今ほど力づけられているとはありませ

せん。弱い思いが支えられ、弱くも結ばれたものは主にあって結ばれたものたちの祈りです。

真つ先に教団救援対策委員会より石橋教団議長と調査委員3名が駆けつけ、つぶさに現地を見、全面的な協力を申し出て下さった。また、奥羽教区議長と共に教区・教団で難局に向かうことを合意しました。さらに関東教区新潟地区、長田センター、東北教区センターの協力を得て、東北教区被災者支援センターを立ち上げることができました。安否確認から物資支援、訪問と献身的な働きをして下さっています。更に各教区の応援、援助、人材と次々力強いお申し出があり、勇気付けられています。

被災者と共に歩む教会の救援を 足田國磨 呂

この度の「東日本大震災」の被災者の皆様の上に、神の慰めと憐れみと助けを祈りいたします。3万人近い死者・行方不明の方々がおり、愛する者を失われた方々の上に、神の特別な慰めと支えがあるようにお祈りいたします。

この大震災は、北海教区、奥羽教区、東北教区、関東教区、東京教区と五教区にわたる広範囲の地域で、未曾有の地震・津波の被害を

受けては、幸い皆の命は無事でした。しかし、奥羽教区や東北教区の太平洋沿岸で、津波で壊滅状態になった町々の映像を見て言葉が失ってしまいました。

この度の「東日本大震災」の被災者の皆様の上に、神の慰めと憐れみと助けを祈りいたします。3万人近い死者・行方不明の方々がおり、愛する者を失われた方々の上に、神の特別な慰めと支えがあるようにお祈りいたします。

る時が与えられるものと願っています。長い期間が必ずや過ぎ、着の身着の要になると思いますが、息長く、粘り強く希望を持って向かうつもりです。奥羽、関東の諸教会ともお覚え下さい。

(東北教区総会議長)

ます。幸いにして助かった多くの人は、着の身着のまま避難所の生活をされています。その町々に立てられている教団の教会の兄弟姉妹のことを覚えます。

同じ被災に遭った兄弟姉妹たちへの教会の救援は、その被災地域の人々と共に歩む救援でありたいと願っています。その地域の教会を通して、被災者の方々に行き届く愛の業の救援活動が早急に求められています。関東教区では、4月12日(火)14日(木)にかけて埼玉地区が中心になって大船渡教会と連携して避難所の方々に衣類を届け、炊き出しやホットとするレクリエーションの提供も計画しています。

の人のニーズに合った救援活動のために祈りと力を合わせましょう。

また、津波の被害による福島原発事故は、科学万能主義が破綻をもたらした人災です。私たちキリスト者は、この原発事故が一日も早く終結するために神の助けを求めて真剣に祈りましょう。命がけに事故の終結のために働いている人々の命が守られるように神の助けを祈りましょう。また、避難命令で近県に避難している方々の救援のためにも祈りましょう。

(関東教区総会議長)

【編集部よりお知らせ】

◎本号は、東日本大震災の特別紙面といたしました。通常の体裁と違ったり、記事内容に重複などがあります。

また、輸送状況や郵便事情によっては、一部地域に送付できなかったり、遅れが生じる場合があります。ご了承ください。

◎大震災に関する最新情報は、日本基督教団救援対策委員会のホームページで見ることができます(一部、英語・ハンガール・中国語があります)。

教会被災状況は、随時更新しています。

http://www.uccj-jishin.jpn.org/

水日本基督教団公式ホームページからもリンクしています。

http://www.uccj.or.jp/

東日本大震災緊急救援募金のお願い

主の御名を讃美いたします。

3月11日(金)14時46分頃、マグニチュード9.0を記録する巨大地震が東北地方太平洋沖で発生いたしました。地震とそれに伴う津波により、岩手・宮城・福島を中心に大きな被害が出ています。被害の全容は未だ明らかではありませんが、被災した教会のために、多くの資金が必要となる事は、まちがいありません。日本基督教団では地震直後から情報収集を始め、12日には救援対策委員会を設置、支援のための準備を整えはじめております。

けれども事は急を要します。教団社会委員会では、ただちに募金を開始いたします。祈りをもってご協力をいただきますよう、お願いを申し上げます。なお、本格的な募金は、常議員会が設置する委員会にて行なわれる予定です。

2011年3月14日
日本基督教団社会委員長 釜土達雄 記

- ◎募金期間 特に定めず
 - ◎目標額 特に定めず
 - ◎送金先 加入者名/日本基督教団社会委員会
 - ◎郵便振替 00150-2-593699
(通信欄に「東日本大震災緊急救援募金」とお書きください。)
- 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31
日本基督教団社会委員会(電話 03-3202-0544)

3教区へ1千万円ずつの救援金

震災直後の3月12日の第1回救援対策委員会に続き、3月23日(水)、第2回委員会を開き、下記の件について協議した。

＊被災した3教区へ、各1千万円を送金する件について

すでに、石橋秀雄教団総会議長による問安(3月13日、16日)に際して、各教区へ50万円ずつお見舞い金を渡しているが、さらに、石橋議長の要請により、被災した3教区へ各1千万円を送金することとした。

ただし、送金に際しては、以下のことを確認した。

①これは「教区(総会議長 常置委員会)の責任において、被災教会・伝道所の救援に重きをおき、お使い下さい」とする。

②内藤総幹事が、各教区議長へ、上記の内容を個別に連絡をする。

《救援対策委員会委員》
内藤留幸、道家紀一、釜土達雄、藤盛勇紀、計良祐時、大三島義孝

海外からの祈り・応援メッセージ

世界宣教部宛に

震災直後に教団事務局世界宣教部宛に、海外の宣教師の教会はじめ各国の教会から、祈りと応援のメッセージが届いた。(一部を紹介し翻訳通り、また一覽は以下の通り)。

《台湾基督長老教会 (PCT)》
3月11日(金曜日) 16:30 私達は、今日、日本の北東部を今日の午後襲ったマグニチュード8.8の地震についてのニュース報道に接しました。もちろん、報道は現時点では散発的なものですが、火災と津波の心配が既にあることを、私達は知っております。どうぞ、台湾基督長老教会の幹部やスタッフがこの困難を深く察していることを、お覚え

《メッセージの届けられた海外諸教会・一覽》
韓国基督長老教会、韓国基督教監理会、フィリピン合同教会、タイ基督教会、アジアキリスト教協議会、南インド教会、東チモールプロテスタント教会、大韓イエス教長老会(統合)、ニュージーランド基督長老教会、ニュージーランド長老教会、オーストラリア合同教会、アメリカ合衆国長老教会、アメリカ

力改革派教会、合同メソジスト教会、米国合同教会、クリスチャン・チャーチ(メソジスト)、カナダ合同教会、スイス・プロテスタント教会連盟、英国メソジスト教会、南西ドイツ宣教会、東亜ドイツ伝道会、ドイツ福音主義教会、南アフリカ共和国オランダ改革派教会、ジンバブエ合同教会、ミッドジョン21、ベルリン近郊の諸教会、世界教会協議会。また、世界各国の日本人教会の宣教師からも届いている。

(3月24日現在)

尚、これらのメッセージの内3月18日受信分は3月22日の常任常議員会で全ての訳文を配布した。

田中牧子氏(無任所教師)
11年2月2日、逝去。46歳。神奈川県に生まれる。'91年農村伝道神学校を卒業、同年国分寺教会に赴任、なか教会を経て、10年まで船越教会を牧会した。遺族は父・田中豊さん。
津島久雄氏(隠退教師)
11年2月26日、逝去。81歳。静岡県に生まれる。'67年長島聖書学舎を卒業、'72年光明園家族教会に赴任、'04年まで牧会し隠退した。遺族は妹・梅元やえ子さん。

主の恵みに支えられて

川 染 三 郎 (高松教会牧師)

くの人に愛されて39年の生涯を生きました。残された家族も、万事を益としてくださる主の愛に守られて今あることを思いました。

No.2

気がつけば、伝道43年、古希を迎えていました。この時、思いがけず「召命のとき」を思いめぐらすことになりました。

献身の思いを家族に話したとき、大反対されました。その理由は、牧師にふさわしくない、つまり牧師の苦勞に耐えられないことでした。

高校卒業1年後、布団一つで富士見町教会の堂守の部屋に転がり込み、日本聖書神学校に入学、

その時、神学校での出エジプトの学びにより、マナを降らせウツを与えてくださる生ける神の愛の御働きに委ねることを学びました。

思いがけなく米国の教会から奨学金をいただけるようになり、東京神学大学に学ぶようになりまし

た。それから後も生ける神の御手に守られ、万事を益としてくださる主に委ねる歩みとなりました。

一途に伝道したいという志を支え、主の御計画に従うなら万事を益としてくださる神に委ねることを学びました。

かいらなるキリストが御働きになり、信徒がその救いの恵みにあずかっている姿に感動させられました。

教師検定試験公告

2011年秋季教師検定試験を左記の要領で行います。

- 1、受験要綱の申し込み
受験要綱と教団指定の願書用紙は160円切手を同封し、正教師受験志願者か補教師(A、B、Cコースの別も)受験志願者かを明記した上、封書でお申し込みください。

- 2、受験願書の提出
受験願書と必要書類を整えて、受験料とともに所属教団に提出してください。
①教区締切 2011年6月3日(金)(教区により締切が異なりますので、教区事務所に確認してください)
②教団締切 2011年6月30日(木)(各教区から教師検定委員会に提出する際の締切です)
*受験料は正教師1万3千円、補教師1万円。

- 3、正教師「説教」(釈義)の課題テキスト
①旧約 詩編139編1〜12節
②新約 ローマの信徒への手紙8章18〜25節
4、正教師の「神学論文」の課題
『今日における宣教の課題』に、「特に」をめぐって」という副題をつけ、ご自分の伝道・牧会をふまえて神学的に論述してください。

- 5、正教師の「組織神学」の課題
万人祭司と教師職について、組織神学的に論述してください。
6、補教師「説教」(釈義)の課題テキスト
①旧約 イサヤ書42章1〜14節
②新約 ルカによる福音書5章1〜11節
*コースによって「説教」(釈義)の提出内容が異なりますので、必ず受験要綱をご確認ください。

- 7、補教師(CIIIコース)の牧会学の課題
『牧会とは何か』について神学的に論述してください。
8、提出物締切について
当委員会への提出締切日は、「説教」(釈義)「神学論文」「組織神学」「牧会学」全て2011年7月1日(金)必着です。
9、学科試験面接について
学科試験は9月13日(火)、面接は9月14日(水)、15日(木)に大阪クリスチャンセンターにおいて実施します。詳細は受験志願者へお知らせいたします。不明な点は直接、当委員会へお問い合わせください。

2011年4月1日
日本基督教団教師検定委員会
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18-31
電話 (03) 3202-0546

深谷 松男さん

神を畏れ人を愛する

91年まで連続16年間、常議員を務めていた深谷さんが強調したのは、「神を畏れ人を愛すること」だった。「近年、教会で人間主義が強くなって、神に対する畏れがなくなってきた。だから、怒号の中の礼拝が起きてくる」と深谷さんはいふ。

金沢大学法学部長を務め、民法、家族法の著書を持つ深谷さんは、「教会法をしっかり確立すること」の重要性を指摘し、「教会が崩れたら、信仰が崩れる。だから、教会の秩序を保つことが何よりも大切」と力説する。

最近の教団の現状を接する深谷さんは、今総会期、乞われて2度目の信仰職制委員に就任した。
教会の秩序が保てなくなった

原因の一つとして、深谷さんは「役員(長老)会の力が弱くなった」からではないかとする。役員・長老の力量不足と人間主義。「日本は聖書クリスチャンが多い。本当に信仰に生きていくのか」と問う。

金沢大学を辞した後、深谷さんは一昨年まで10年間、宮城学院長を務めた。小学校はなく、幼稚園、中学から大学まで持つ宮城学院は、近年の少子化による学生生徒漸減傾向の中で、「公立志向の強い県なので、中学部は厳しい」ことを除けば恵まれているが、「キリスト教学校とい

っても、教師にキリスト者は少くないから、ノン・クリスチャンの教師にキリスト教主義教育を理解してもらおうのは大変だった」と述べた。
若者の礼拝出席者減少が、よく指摘されるが、「何かを求めている若者は決して少なくない。そこに、どういう火を点けるか。それが、牧師、キリスト教学校の役割」という深谷さんは、「キリスト教学校と建学の精神」(教団出版局)を上梓した。その中で「キリスト教学校が建学の精神を改めて確認し、キリスト教に基づく人間教育、人格教育を確立すること」を何よりも願っている。

第37回総会期・第1回常議員会で設置が決定された『救済対策基金』に関する運用規定に従って、教団は、東北・関東大地震の翌日の3月12日に総幹事のもとに『救済対策委員会』を立ち上げ、早速活動を開始しました。

委員は災害対応担当の道家紀一幹事(書記)、社会委員長の釜土達雄牧師、ほか3名の計6名。第1回委員会で決定した主なことは次のとおり。

大地震被災救済対策委員会活動開始

すこと。(すでに実施しました)
(本格的な教会再建募金は常議員会の決定を経て行う)
③被災教会の現状を情報として適切に正確に知らせる。(新報、信徒の友、ホームページ・サイト

等を用いて)
すでに阪神淡路震災第2次募金よりの6千万円と、中越沖地震被災支援募金の残金7百万円が繰り入れられてスタートした『救済対策基金』の活用は、教団の救済対策委員会が中核になって、現地である東北・奥羽教区などの救済委員会との連絡を密接にりながら、また、地震被災教会の救済を(教団総幹事 内藤留幸)